NEWS 宮崎東 127号
独立行政法人 国立病院機構 宮崎東病院／広報誌
2020.5

目　次

1．巻頭言
2．令和２年度 開放型登録医療機関紹介
3．『あじさい食』のご紹介
4．新任医師よりご挨拶
5．編集後記

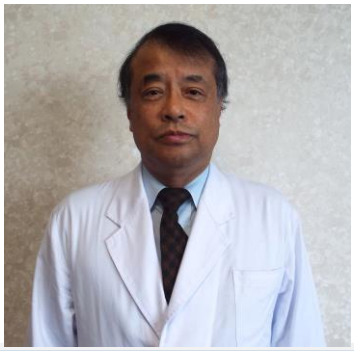
国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために、たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに、患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。

宮崎東病院の基本理念

「主役は病める人」をモットーとして患者さんの人権を尊重し、良質かつ高水準の医療を提供します。

巻　頭　言　コロナ感染症その後



院長
塩屋　敬一

2020 年 4 月 24 日現在、コロナ感染症（COVID-19）が猛威を振るっている。全国で 12,472 人の方が感染し、死者も 328 人に上っている（死亡率 2.6%）。
東京都では 3,572 人が感染し 87 人の方が亡くなった。

4 月 7 日に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が出され、4 月 16 日に対象地域が全国に拡大された。

東京では感染経路の不明な患者が 6 割に上りパンデミックの様相を呈している。宮崎県では 3 月 4 日から 4 月 11 日までに計 17 名の患者さんが発生したが、その後新たな発生は認めていない。初期の感染持ち込みを何とか抑え込み、再びクラスターの発見と感染を防ぐ時期に戻ったと考えられる。

このコロナ感染は今後どうなっていくのだろうか？

100 年前のスペイン風邪では、日本国内において 2 年間に 3 波に分け流行が起こり、計 2,360 万人（当時の人口の 40%）が感染し 38 万人が亡くなった（死亡率 1.6%）。当時治療法はなく集団免疫獲得により終息したとされる。

その直前、日本は第一次世界大戦特需に沸き景気は良くバブルの様相を呈していた。しかし特需はやがて消失し、スペイン風邪のピークとバブル崩壊が同時期に起こり、やがて関東大震災、米国発の世界恐慌など様々な要因が加わり昭和大恐慌へとつながったそうである。企業倒産、失業者増加、犯罪多発などの社会不安が増大して行った。

現状はどうだろうか？感染の影響で既に経済に影響が出始めている。本日宮崎県は遊興施設への休業要請を発出した。西橘通りでも飲食店など 90 店舗が廃業すると聞く。

社会不安の一つとして医療崩壊がある。患者数増加により医療資源がとられて一般患者を診療できなくなる。また院内感染により外来を閉鎖せざるを得なくなり、地域の医療を引き受けられなくなる。どちらも病院が通常診療を出来ない事態に陥る。

病院の使命は、県への協力は当然として、①院内感染を防いで、一般診療、救急診療機能を維持すること、②新検査法、治療薬やワクチンを導入してコロナ感染症の第 2 波をもたらさないことだと考えられる。

これらを確実に行うことが国・地方の経済の回復においても有効に働くだろう。皆様方のご理解をお願いしたい。

令和２年度 開放型登録医療機関紹介

しげひらクリニック
院長　重平　正文　先生

〒885-0005
都城市神之山町 2030-1
TEL：0986-27-5555　FAX：0986-27-5556
標榜診療科：内科

私は都城市にて内科クリニックを開業しています重平正文です。クリニックは国道２６９号線を宮崎から都城方面に向かって走りますと都城市に入ってすぐ右手に位置しております。開業当初は田んぼの中の一軒家でしたが最近はアパートが立ち並び国道からは見えにくくなりました。

私の出身地は広島です。宮崎医科大学を卒業し、２内科に入局しました。話題はそれますが当時住んでいた貸家の前の居住者は比嘉名誉院長です。私の専門は肝臓です。大学での診療、教育、研究生活に馴染めず、古賀総合病院に就職。楽しく働いておりましたが、その後国立都城病院（現都城医療センター）に肝臓内科を立ち上げることになり、永田賢治先生とともに赴任しました。C 型慢性肝炎の啓蒙のため公民館活動や肝臓がんや食道静脈瘤の治療など当時の忙しさが今では懐かしく思い出されます。

平成１０年７月、有床診療所を開業しました。入院は肝臓癌、非代償性肝硬変など重症が多く、stay clinic を余儀なくされていました。５年もすると肝臓の重篤な患者さんは少なくなり、糖尿病など生活習慣病が増えてきました。現在は糖尿病のクリニックと誤解している患者さんが多くなりました。糖尿病患者さんの指導はスタッフ（看護師６名、管理栄養士３名）に任せきりです。

コロナ禍で会議、講演会などが中止となり、出かける機会もなく、毎日草取りに精を出しています。お陰様で花壇や菜園の手入れが行き届いており、患者さんやスタッフに感心されています。診療の方は新燃岳噴火時の備蓄マスクを都城市から配給していただき、受付、問診室のビニールのシールドやフェイスシールドはハンズマンで、防御服は１００均のレインコート、消毒用アルコールは日南市の酒造会社から調達し、感染対策を行いながら恐る恐る頑張っています。発熱患者さんが診てもらえるか否かを遠慮しながら電話される状況には心が痛みます。一刻も早くコロナ禍が終息することを祈るばかりです。

当院から宮崎東病院まで高速を利用すれば３５分で行けます。宮崎東病院の先生方には神経疾患や結核などの呼吸器疾患などで常々お世話になっております。今後とも患者さんをお願いする事になりました折には宜しくご高配の程お願い申し上げます。

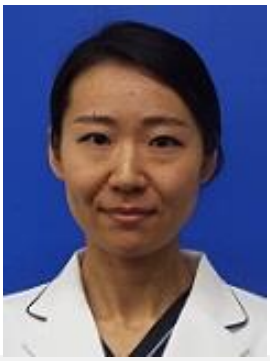
※開放型登録医制度

宮崎東病院では平成 16 年 9 月より開放型病床を設置しております。

開放型病床とは、かかりつけ医師（開業医）と宮崎東病院医師（主治医）とが連携して、入院診療を行うというものです。患者様にとっては、かかりつけ医師との関係がとぎれることがないため、入退院への不安が軽減されます。

現在、104 医療機関の先生方にご登録いただいております。

『あじさい食』のご紹介



栄養管理室長
津野　愛

当院では、6年前より“がん治療”を行っている患者様の“化学療法中の副作用”に対応した食事を検討し、『あじさい食』と名付け提供しております。名前の由来は、紫陽花（あじさい）の花は、様々な色に花咲くことから、できるだけバラエティーに富んだメニューを提供したいとの思いから名付けられました。

化学療法中は、“吐き気や嘔吐”、“味覚や嗅覚の障害”による食欲不振が出現し、体重減少、体力低下を起こしやすくなります。個々の患者様により副作用の出現状況は異なりますが、これらに配慮した食事として様々な工夫をしております。（図：あじさい食の特徴）

現在では化学療法中だけでなく、ターミナル期の患者様へ提供することもあり、手間はかかりますが、栄養を摂る手段としてだけでなく、少しでも『食べるという楽しみ』の一助になればとの思いで心を込めて作っております。

↓　図：あじさい食の特徴

近年、栄養部門は患者様の高齢化や生活習慣病罹患者の増加に伴い、栄養管理（栄養食事指導や栄養状態の評価・判定等）の専門組織として医療現場において果たし得る役割は大きなものになっております。

一方、病院での食事は治療の一環として提供されるものであり、病院を選ぶ際の判断材料にもなり得るものでもあるため、日々「安全でおいしい食事」の提供と質の向上を目指し、委託給食会社のスタッフとも連携しながら給食管理にも取り組んでおります。

当院の栄養管理室は、管理栄養士3名、非常勤事務員1名で構成され、調理部門は委託にて運営しております。管理栄養士の数は少ない状況ではありますが、今後は、外来通院中の患者様におきましても、積極的に多職種と協働しながら、ご自宅での栄養管理の支援を行っていくことで、質の高い医療の提供に貢献してまいりたいと考えております。栄養管理にお困りの際は、いつでもお声かけください。

新任医師よりご挨拶

内科医師
与那嶺　真一

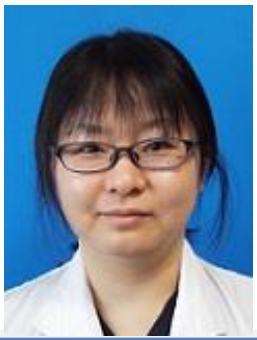
令和２年４月から国立病院機構宮崎東病院内科に赴任した与那嶺真一と申します。出身は宮崎県宮崎市、熊本大学を卒業して今年度で医師６年目です。昨年度は熊本大学病院や熊本労災病院の糖尿病代謝内科で勤務していました。これまでは糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病を診る機会が多かったですが、今後は宮崎での地元に密着した様々な内科全般における疾患や予防も含めて勉強していきたいと考えています。現在のところ熊本での病院勤務と比較して、コロナ感染症の影響もあるためか外来入院患者共に少ない印象ですが、今後内科疾患の患者さんをご紹介いただければと存じます。

不慣れなことも多いと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

呼吸器内科医師
松尾　彩子

呼吸器内科の松尾 彩子です。宮崎県出身で宮崎大学医学部を卒業後、呼吸器内科（旧第３内科）に入局しました。大学病院での勤務、沖縄県立中部病院呼吸器内科への国内留学、研究生活を経て、卒後 10 年目で宮崎東病院呼吸器内科へ赴任しました。院内には緑が多く気持ちの良い環境で、かつて『療養所』であったことを実感します。渦中の新型コロナウイルス感染症をはじめ、結核などの感染症診療における呼吸器内科医の責務の大きさを自覚しながら頑張っていこうと思います。赴任して約２ヶ月が経ち、医局の先生方やコメディカルのみなさま方にも色々教えていただき、働き方のペースも掴めて楽しく過ごしています。せっかくなので新しい趣味も始めてみようと思い、これから上司にゴルフを教わる予定です。

今後ともどうぞよろしくお願いします。



神経内科医師
鈴木　あい

2020 年３月 16 日から宮崎東病院神経内科へ配属になりました鈴木あいと申します。出身は宮崎県小林市で、高校まで小林で育ちました。宮崎大学医学部へ入学し、神経内科を専攻いたしました。鹿児島出身の祖母に「んだもしたん！」（日本語訳：あらまあなんてことでしょう！）と言われながら、西諸弁に囲まれて育ちましたため、たまに方言がでます。理解してくださる方がいるとうれしいです。たくさん話しかけてください。

これから、どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

今年のゴールデンウィークは「StayHome」がキーワードだったかと思いますが、皆様どのような休日を過ごされましたでしょうか。

私は StayHome で食べ過ぎ、寝過ぎ、だらけ過ぎの「3 つの過ぎ」を謳歌した結果、身体がいつもより重い気がします。体重計には乗っていません。

外出したい気持ちをぐっと堪えて、身の回りで出来る感染対策を行い、この国難を皆で乗り越えていきましょう。

（ 編集委員 M ）